



青葉が輝く桜 校長 小山 節

今年の6月末は昨年度と異なり、暑さが厳しくなく、曇り空、雨が降る日が続きました。昨年は高温のため、昼休みの校庭で遊ぶことができませんでしたが、今年は各学年グループで球技を楽しむ姿が見られました。また、昨年、6月末に実施した5組の日光宿泊学習では、熱中症対策に力を入れていました。今年は梅雨前線の通過により、雨が降ったりやんだりを繰り返す天候で、蒸し暑さよりも涼しさを感じる気候の中、過ごすことができ、安心しています。

4月の始業式、入学式を終え、早いもので夏休みを迎える季節となりました。春の穏やかな気候、春から夏への移り変わり、梅雨から本格的な夏へと日々、季節が変化しています。さまざまな自然環境の中、多くの学校教育活動を予定通り、進めることができたことに感謝しております。

朝、玄関で生徒に「おはようございます。」とあいさつをしています。4月よりも自らあいさつをする生徒が増えてきて、大変うれしく思います。気持ちよく、朝をスタートさせることができ、一日の活力になっています。

保護者の皆様におかれましては、日々の生徒の生活や気持ちに寄り添っていただきました。大変な苦労もあったと思います。生徒によって、一人一人、違いますが、大人への成長を遂げています。小学生の時は、学校や友達のことをよく話していた子、ご家族の話を素直に聞いていた子、家族とともに時間を過ごすことを楽しみにしていた子と違っていても、いつの間にか、友達との時間が増え、家族で過ごす時間が減ってきます。保護者として、子どもが徐々に自立していること気づき、驚きやうれしさを感じる方もいらっしゃると思います。生徒が少しでも自分の行動をよりよい方向に選択できるように学校として、関わっていきます。三者面談で担任にお話してくださったことを今後に生かしていきたいと考えています。

夏休みが始まります。ご家庭で過ごす時間が長くなります。4月から7月までの学習の振り返りを計画してほしいと思います。自分の得意分野を伸ばすのか、苦手な分野を克服するのかを考えるように生徒に伝えています。

暑さが厳しくなりますが、体調に気をつけ、睡眠時間を確保し、ゲームの時間を区切り、生活リズムを整えるようにご家庭での声かけをお願いいたします。

6月23日(火)～24日(水)到達度確認テスト

2日間にわたって、今年度第1回目の到達度確認テストを実施しました。計画表を使って、テスト勉強に励み、真剣に問題用紙と向き合っていた生徒達の姿が非常に印象的でした。さて、テストは受けて終わりではありません。本当に大切なのは「テストが返却された後、どう動くか」です。点数が良かったことに安心したり、思うような結果が出ずに落ち込んだりするだけで終わらせてしまっはもったいないことです。間違えた問題は、いわば「自分がこれから伸びるための宝の山です。なぜ間違えたのかを冷静に振り返り、解き直す習慣こそが、確かな学力を育みます。ご家庭でも「どこが難しかった?」といった前向きな会話を、振り返りのきっかけにしていいただければ幸いです。



6月24日(水)SOSの出し方教室

教育相談コーディネーターの教員を講師に、グループワークを交えた授業を全学年合同で行いました。この授業は生徒達が悩みや大きなストレスを抱えた時、一人で抱え込まずに周囲の信頼できる大人や専門機関に助けを求める方法を学ぶものです。また同時に、身近な友人の変化に気づき、話を聴いて大人につなぐ役割についても考えました。中学生という時期は学業や進路、友人関係等、思春期特有の複雑な悩みに直面しやすい時期です。さらに、現代の子ども達はSNSの普及により、大人が想像する以上に複雑なストレスを抱えがちです。お子様の様子で少しでも気になる変化がございましたら、遠慮なく学校へご相談ください。これからも、子ども達が安心して学校生活を送り、健やかに成長できるよう、全教職員一丸となって見守ってまいります。



6月24日(木)～25日(金)5組日光宿泊学習

足立区内の特別支援学級12校が6校ずつに分かれて、栃木県日光市へ宿泊学習に行ってきました。1日目は「コジマ子どもサイエンスパーク」に行き、宿泊施設の日光林間学園へ向かいました。サイエンスパークには、AIやARなどの最新技術を取り入れた屋内展示に加え、最新のプラネタリウム、そして広大な屋外エリアがあり、実際に体験しながら科学の幅広い知識について学びました。2日目は東武ワールドスクエアに行きました。園内は「現代日本」「アメリカ」「エジプト」「ヨーロッパ」「アジア」「日本」の6つのゾーンに分かれており、歩くだけで世界一周の体験ができ、各国の気候や文化による建築様式の違いが肌で感じられました。2日間、互いに声をかけ合い、時間を意識して行動することができました。また身の回りの整理整頓等、自分のことは自分でしっかり管理ができ、自立心を養うことができたはずです。何より、集団の中で我慢することを覚え、仲間を思い合って楽しく過ごすことができていました。



7月13日(月)がんに関する教育

講師の方をお招きして、全校生徒を対象にがん教育の授業を行いました。現在、日本では「生涯に2人に1人ががんになる」と言われています。がんは決して他人事ではなく、誰もが直面する可能性のある身近な病気です。今回の授業は、単に病気に関する医学的な知識を学ぶだけでなく、「命の大切さ」や「困難に直面した時の生き方」について深く考えることを目的としています。

講師の方とはご自身の発覚当時の不安や葛藤、そして治療を乗り越えてこられた道のりを、中学生にもわかりやすい言葉で丁寧にお話してくださいました。最初は緊張気味だった生徒達も真剣な眼差しで聴き入っていました。リアルな体験談は生徒達の心を強く揺さぶったようです。病気という試練を通して「今ある命の尊さ」や「これからの生き方」を、自分自身の課題として主体的に捉えてくれたと感じています。



